

マリレジャー安全レポート

第14号

第七管区海上保安本部
マリレジャー安全推進室
TEL 093-321-2931
E-mail:kyuunan-7@kaiho.mlit.go.jp

花火見物のボートが衝突・転覆 大村湾

8月1日午後10時頃、長崎県大村港で開催された花火大会の見物に来ていた漁船A丸（長さ7m）とプレジャーボートB丸（長さ10m）が、花火終了後の帰港中に衝突し、A丸が転覆しました。

転覆したA丸は、船長(72歳)他4人(うち小学生2人)が乗船しており、3人が海に投げ出され、小学生2人(6歳、9歳)は船内に閉じ込められました。

一方、プレジャーボートB丸(約10メートル)は、船長他8人が乗船しており、1人が海に投げ出されました。投げ出された4人は、付近にいた船に救助されました。転覆したA丸船内に閉じ込められた小学生2人は、B丸船長が潜って助け出しました。3人が病院に搬送されましたが、命に別状はありませんでした。

事故の原因は、両船の「見張り不十分」によるもので、両船とも衝突するまで相手の船に気が付いていませんでした。

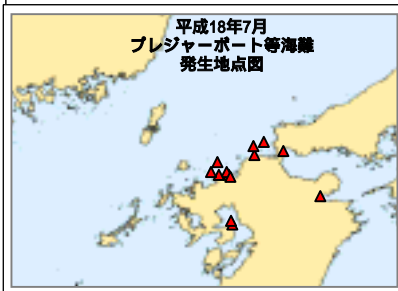
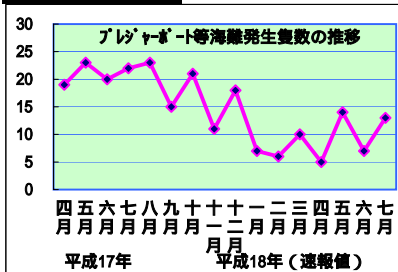
また、両船の乗船者全員がライフジャケットを着用していませんでした。



衝突・転覆した漁船A丸

平成18年7月
プレジャーボート等
海難発生隻数

合計	7隻
衝突	2
乗揚	1
転覆	0
浸水	0
推進器障害	0
舵障害	0
機関故障	4
火災	0
爆発	0
行方不明	0
運航阻害	5
安全阻害	0
その他	1



～花火見物の船舶事故から～

沿岸部で開催される花火大会では、海上から見物するプレジャーボートや漁船が数多く集まります。終了後は、定係地を目指して蜘蛛の子を散らすよう、縦横無尽に一斉に走り始めます。(皆様も、このような光景を目にしたことはありませんか?)

一番危険なのはこのような花火終了の直後です。**衝突防止のため周囲の見張りを十分**行い、高速での航行は控えることが大切です。

また、花火見物では、いつも(漁業や釣り)より多くの**子供や女性が乗っている**ことが多く、乗船者の飲酒も予想されます。

小型船では他船の航走波や船上での人の移動による船の動揺、飲酒の影響などにより体のバランスを崩し、**誤って海に転落**することがあります。

このようなことから乗船者のライフジャケットの着用は欠かせません。**12歳以下の子供は法令で着用が義務付け**られていますが、法令の有無にかかわらず、大人も子供も、必ず着用しましょう。

安全な操船と安全具の装着があなたの家族や仲間を守ります。

楽しいはずのレジャーを悲劇としてはなりません。
みんなが笑顔で下船できるよう心がけましょう。



海の事故が多発 梅雨明けの週末

長引いた梅雨が明けた後の土・日曜となった7月29～30日の2日間に、各地の海や山でレジャー中の事故が発生しました。当管区内でも、**遊泳中7人(3人死亡)**、**釣り中のボートからの転落2人(2人死亡)**、**釣り中の転落1人(死亡)**、**負傷1人**などの事故が発生しました。

詳細な事故原因の分析はこれからですが、一般的には、**事故者の不注意、知識技能不足、無謀行為や年少者に対する保護者の監視不十分**などが原因です。一人ひとりが気をつけて事故を未然に防いで欲しいものです。

【遊泳中の事故】

宇部市の海岸でビーチマットに乗った女兒(8歳)と男性(36歳)が泳いでいたところ、マットが風に流され、これを追いかけた男性が行方不明(3日後遺体で発見)になりました。女兒も溺れかけましたが、事故を目撃した男性に救助されました。

福岡県志摩町では、家族と海水浴に来ていた男性(42歳)の姿が見えなくなり、付近にいた遊泳客が海底に沈んでいる男性を発見しましたが死亡が確認されました。

このほかにも、男性(22歳)が飲酒後に遊泳して溺死、浮輪から離れ溺れた女兒(5歳)を助けようとした女兒(11歳)も深みにはまり溺れるといった事故もありました。

【釣り中の事故】

北九州市で沖合の防波堤で、釣りをしていた男性(63歳)が波消ブロックの間隙で頭から血を流しているところを発見され、巡視艇及び救急車で病院に搬送したものの死亡が確認されました。

【プレジャーボートからの海中転落】

福岡県二丈町で、釣り中の男性(58歳)が熱中症による意識障害(推定)で海に転落・死亡しました。また、長崎県対馬でも、釣りに出た男性(65歳)が戻らず、捜していた家族が漂着したボートと男性の遺体を発見しました。

【プレジャーボートの海難】

ヨットの機関故障や水上オートバイの燃料欠乏、無人漂流などが発生し、巡視艇が曳航救助しました。



釣り中(磯、護岸等)の海中転落者の生存率(H13～H17全国統計)	
救命胴衣着用	救命胴衣非着用
81%	51%

若年齢層に対する海の事故防止指導

着衣泳体験（宍岐）



実技や安全講話で事故防止

例年、若年齢層(18歳以下)の海の事故が夏期に集中していることから、夏休み前の6・7月を中心に管内海上保安部署は、小中学生等を重点としたプールでの着衣泳体験や海上安全教室の他、子供たちが集うイベント等の機会をとらえて延べ75箇所、約5千人の小・中学生、幼児等に海の事故防止のための啓発活動を行いました。

海上安全教室（平戸）



ライフジャケット着用体験（佐世保）



海上安全教室（唐津）



巡視船公開に併せたクーラーボックスを活用した救助実演（大分）



水泳授業での安全指導（長門）



着衣泳体験（福岡）



海上安全教室（佐伯）



ダイバー漂流事故から・・・鹿児島宇治群島

ダイバー4人が13時間・12海里漂流 ドリフトダイビング中

【漂流の経緯】

7月17日0630頃、ダイバー9人は、4人と5人の2グループに分れ、ダイビングボートから入水しドリフトダイビングを開始したが、船長との事前の打ち合わせはしていなかった。入水前は南向きと思っていた潮流は、海中では北向きで、予想以上に速く、危険を感じたため約20分で浮上、マーカーブイを上げ、ダイビング船の到着を待った。

略同じ頃、同人達の西側に浮上した5人グループにダイビングボートが接近し、揚収を始めた。4人グループは、次は自分たちの番と思ったが、船長は、当時の潮流の方向は南と思い、残り4人は揚収した5人ダイバーの浮上位置から北側には浮上しないものと判断し、南へ向ってダイビングボートを移動させた。

発見されていないと気付いた4人は、あわててBCジャケットに備え付けの笛を吹くも、ダイビングボートはそのまま航行して行った。4人は船長には発見されていないと判断したが、潮流が速かったことから、瀬に向けて泳ぐことは無理と判断し、発見救助されるまで漂流することを決め、そのまま4人でBCジャケットや手をつないで離れないよう留意した。1930頃、捜索中の航空機が水中ライトを振っているダイバーを発見、その後、巡視船が漂流中の4人を救助した。

【ダイビングボートの対応】

0600頃、ダイバー9人を乗せ宇治群島の避難港を出港、0630頃から2グループが略同時にダイビングを開始した。0700頃、5人の浮上を確認し船内に揚収した。0710頃になっても、残り4人が浮上せず、前日同じポイントでダイビングした際は潮流が南であり、当日も海面には南向きの潮波があったことから、船長は潮流も同様の南流と判断し、北側を確認することなく、現場海域の南西側を約1時間30分捜索した。結局、4人を発見できなかったことから、無線機により海上保安庁を呼出したが連絡がとれず、携帯電話が通じる海域まで約1時間30分航走し、0926海上保安庁に救助を求めた。

【再発防止のために一緒に考えてみませんか？】

海域の選定は適切か？(海域の気象・海象、個々のダイバーの技量に見合った条件であったか。)

ダイバーと船長とは打ち合わせは十分か？(一般的に、潜水時間、浮上予定海域など、互いの事前打ち合わせの必要はなかったか。)

緊急時の連絡体制は適切か？(緊急時は早期通報が被害の極限化に有効です。連絡手段は確保できていたか。)

船上のスタッフは十分か？(島にはスタッフが残っていた。泡の監視や船長の身に何か起きた時のために乗船させる必要はないか？)



編集後記



よろしく
お願いします

本紙も昨年7月に第1号を発行してからこの度で第14号となりました。当マリンレジャー安全推進室ではマリンレジャー愛好者の事故や死者・行方不明者の減少策のひとつとして、レジャー団体やショップ等にメール配布させていただいているところです。

当室では、皆様の団体での安全推進事業等に本紙が活用され、また、ショップ利用者などより多くのマリンレジャー愛好者の方々の目にとまり、一層の安全意識の普及に繋がれば幸いです。

つきましては本紙の傘下関係者への配布やショップ内での展示などにご配慮いただきますとともに、新たな配布箇所のご希望のほか、掲載記事へのご意見・ご要望がございましたら電話やメールなどでお知らせ下さいますようお願いいたします。(マリンレジャー安全推進室)